

1号機タービン建屋の循環注水ラインからの切り離し達成について

～原子炉建屋からタービン建屋へ滞留水が流入しない状況の構築～

2016年 3月 31日
東京電力株式会社

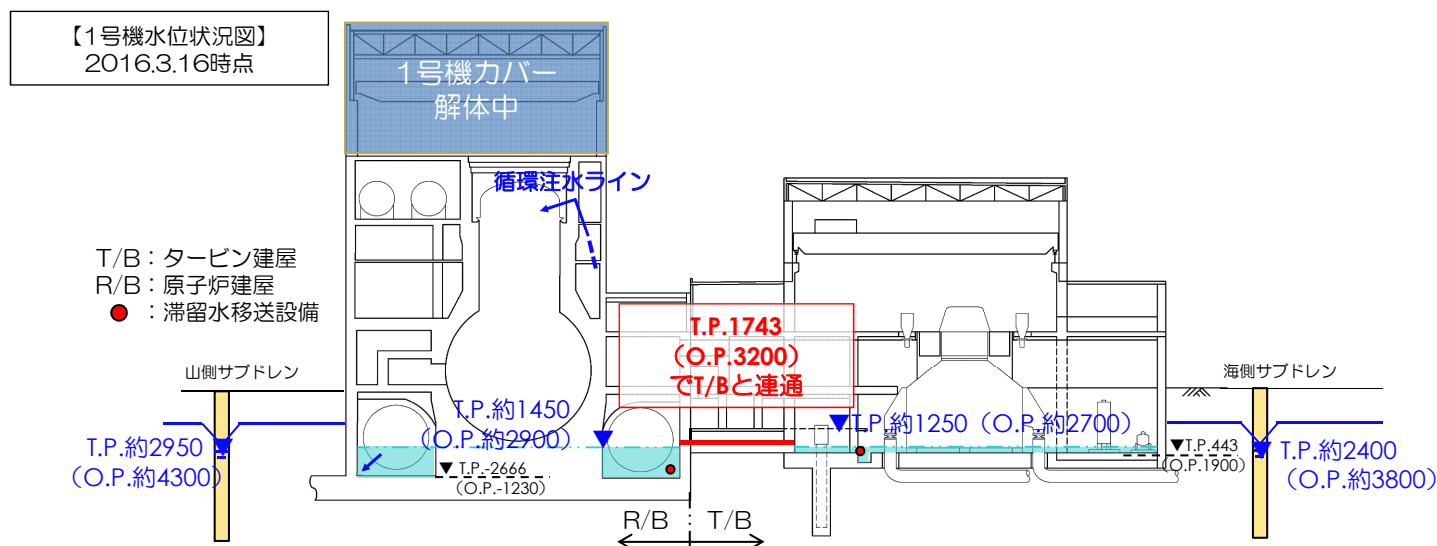


無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

1

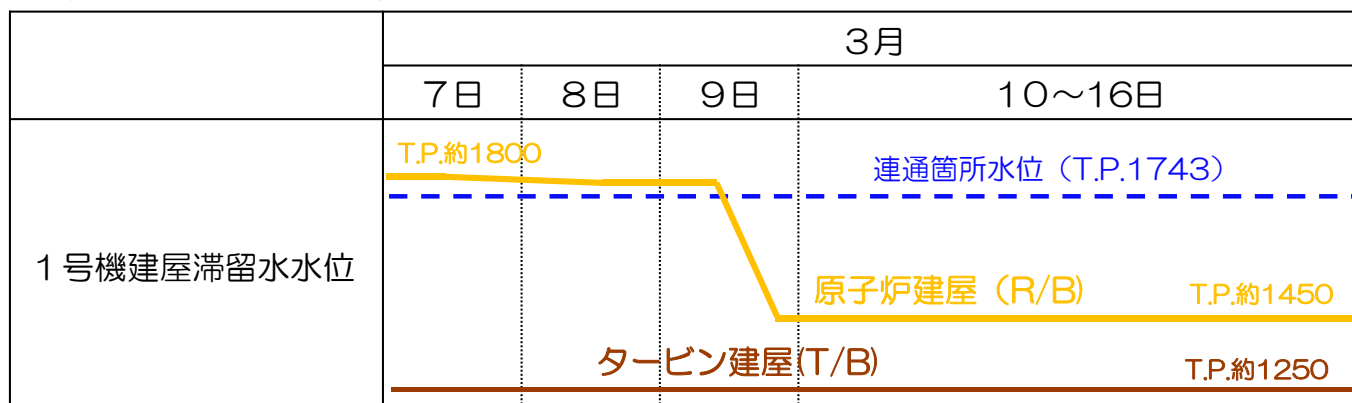
1号機タービン建屋の循環注水ラインからの切り離し

- 1号機タービン建屋（T/B）内の滞留水水位はT.P.1250（O.P.2700）程度まで低下させており、1号機原子炉建屋（R/B）内の滞留水水位は、滞留水移送装置により段階的に水位を低下させている。
- 循環注水を行っている1号機R/B水位を、隣接する1号機T/Bとの連通箇所であるレベルT.P.1743（O.P.3200）以下まで低下（2016.3.7～）させ、水位が安定的に維持されていることを確認した。
- これにより、循環注水に伴い発生するR/Bの滞留水が、T/Bに流入しない状況となり、滞留水処理の完了に向けた取組の一つである「T/Bの循環注水ラインからの切り離し」を1号機にて達成したものと判断（2016.3.16）した。
- 今後、1号機T/B内の滞留水を減少させていく。



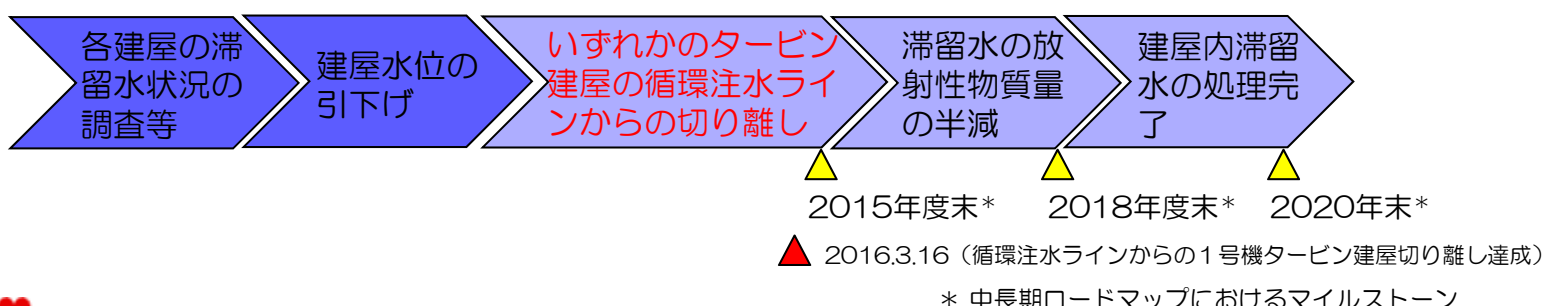
滞留水処理に関する進捗状況

■ 1号機タービン建屋の循環注水ラインからの切り離し状況



■ 滞留水処理に関する主な取組

- 今後、滞留水水位を地下水より低くなるように引き続き監視しつつ、各建屋の滞留水水位を低下させ、各建屋に貯留されている滞留水を更に減少させていく。



【参考】中長期ロードマップ(抜粋)

4. 中長期の具体的対策

4-2 汚染水対策

(2) 建屋滞留水処理の完了に向けた取組

地下水が流入する建屋壁面の貫通部のうち、止水可能な建屋貫通部については、速やかに止水する。まずは、地下水流入が確認されている1号機コントロールケーブルダクトの建屋接続部を止水し、以後も継続的に実施していく。

しかし、建屋壁面の貫通部は多数あり、貫通部の完全な止水は困難と予想される。このため、陸側遮水壁や敷地舗装等の効果による地下水位低下に合わせ、2015年度内に建屋内水位の引下げを開始し、建屋内滞留水と地下水位の水位差を維持する等、建屋内の滞留水を外部に漏洩させないための対策を講じながら、地下水流入抑制を図る。

循環注水を行っている1～3号機については、タービン建屋等を切り離した循環注水システムを構築した上で、原子炉建屋の水位低下等の対策により、原子炉建屋から他の建屋へ滞留水が流出しない状況を構築する。まずは、2015年度内にいずれかのタービン建屋を循環注水ラインから切り離す。

原子炉建屋以外の建屋の滞留水の完全な除去には、雨水流入防止対策や、滞留水除去後のダスト対策が必要なことに留意しつつ、まずは、これらの滞留水を可能な限り浄化する。

これらの取り組みを通じ、2018年度内に建屋内滞留水※1中の放射性物質の量を半減させ※2、2020年内に建屋内の滞留水処理完了を目指す。

※1 1～4号機建屋、高温焼却炉 (HTI) 建屋、プロセス建屋及び海水配管トレンチ内に滞留する水を指す。

※2 2014年度末時点の状態を比較対象とし、濃度の低下や水量の減少により行う。